

白糠高 給食無償に

町が全額負担 生徒確保へ来春から

【白糠】道立白糠高（86 人、田村信明校長）で来年 4 月から、給食の無償提供が始まる。釧路・根室管内の道立高校で給食を無償提供するの初めて。同校の魅力向上策の一環として、町が全額負担する。

町内では、町立白糠小の校舎を町立白糠中に移転統合し、2022 年度に義務教育学校として開校する。来年 4 月から白糠中の改修工事が始まり、中学生は工期中の 1 年間、白糠高で授

業を受けるため、同じ校舎で学ぶ高校生にも給食を提供することを決めた。

給食の無償化について、町は生徒数の確保に努める白糠高を支援しようと、昨年度から検討してきた。道教委によると昨年 4 月時点で、昼食を提供している道立高校は 19 校。このうち無償提供は十勝管内足寄町の足寄高のみで、釧路管内では現時点でゼロという。

町は 18 年度から、町内の小中学校に通う児童生徒の

給食費を全て無償化した。

白糠高の生徒にも適用することで、家庭の経済的負担を減らし、生徒数の確保につなげる考えた。白糠高の生徒のうち、約半数が町外から通っており、川島真澄教育長は「食と食材のまち白糠町の給食を高校生にも味わってもらい、町の良さを感じてほしい」と話す。

8 月上旬には同校の生徒

来年 4 月から給食の無償提供が始まる道立白糠高

用玄関に搬入口を設置する



工事が行われる。町は白糠高の給食費として、年間約 500 万円を見込む。同校は「栄養バランスのとれた給食が毎日提供されることは、生徒の健康管理の面でも必ずプラスになると思う。給食提供によって白糠高校に入学したいと思う生徒が増えれば」と期待した。

（長堀 聖子）